十月廿九日　夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

實話笑說

嫉かれお七（上）

黄表紙鐵輔作

今年は餘りにも勇敢婦人過ぎた八百屋お七孃の二百五十二回忌（オヤ、そんなご法事があつたかネ）……まあつまり彼女の紀念祭に當ります。いやに詳しいんで筆者の先祖か何かとお疑ひになるかも知れませんが決してそんな事はございません。第一彼女は幸か不幸か『愛の結晶』を殘さずに千住で火焔りになつてしまひましたから、子孫が殘る譯は無い筈、先づ御安心下さい。

何しろ彼女たるや、申し上げるまでもありませんが愛人に會ひたい一心で、今ならば刑法第百八條ッてえ恐ろしい放火罪をやつたんですから、確かに不良少女の一種に違ひない。にもかゝはらず、からくり節なんかでは――

『又もや普請あるならば吉祥院に行かりよかと、可愛い吉三さんに逢ひたさの女心の一筋に炬燵の炭を二つ三つ……』

なァんて唄つてゐるし、歌舞伎ではもつと偉さうに『伊達娘戀緋鹿子』だとか『其往昔戀江戸染』なんぞと呈んでお金儲けをやつてゐます。

誠にケシカラン話!! ではありますが兎に角天和三年といへば確かラヂオもなかつた頃で放送ニュースにも現れて居ない樣です。そこで當時の確かな筋の文書によつて彼女の實話を物語らうといふ次第。まづ〳〵お經のつもりでおきゝ下さい。

× ×

天和二年十一月二十八日の大火で燒出された彼女が兩親と一緒に避難したのは

◎○○○○○○○○○○○○○◎

【朝】味噌汁――馬鈴薯　小付　とりみそ

【晝】がんもどき　煮付

【晩】牛鍋　牛肉　葱　白瀧　生玉子

◎○明日の献立○◎

本郷駒込の吉祥寺ではなくつて小石川の南緣山圓乘寺

そこで一目見た時好きになつた前髪立の若衆も、決して吉三な火て美少年らしい名前ではない、戸籍調査によれば、旗本山田重太夫次男山田佐兵衛　生年十六歳――いえ本當ですとも、そして吉三といふのは、色と慾との兩方からお七に三角戀愛をもちかけた與太者の名を、作者達が盗んぢやつたんだから、どうかと思ひます。

一目見たのは何月何日だつたか？

『ねえ、ねえ愛して頂戴ね』と云つたのは何方からだつたか？

この重大なる問題については、お七も佐兵衛も遂に自惚なかつたとみえて、とんと分りませんが、事件後三年ばかり經つて小說家井原西鶴氏が發表されたモデル小說『戀草からげし八百屋物語』によると、いやなかなかテンメンたる情緒です。

佐兵衛君が左指にたつたとげを抜かうとして、銀の毛抜をもてあつかつてるところへ現れたお七母子、お母さんといふ者はどうもその頃から遠視眼の傾向があつたとみえて仲々うまく抜いてやれない、そこで娘に『抜いておあげ』と言ひ出しました。

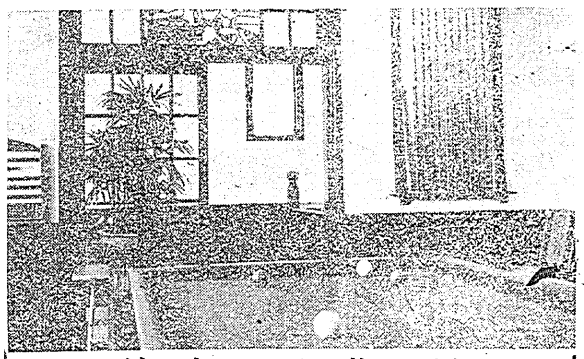
お七はそれだけでもう眞赤になりながら彼の手をそつと取る。すると、ねえ讀者諸氏よ彼はなんてチャッカリした少年でせう?? 佐兵衛君、ギュッと彼女の手を握りました。

文藝募集

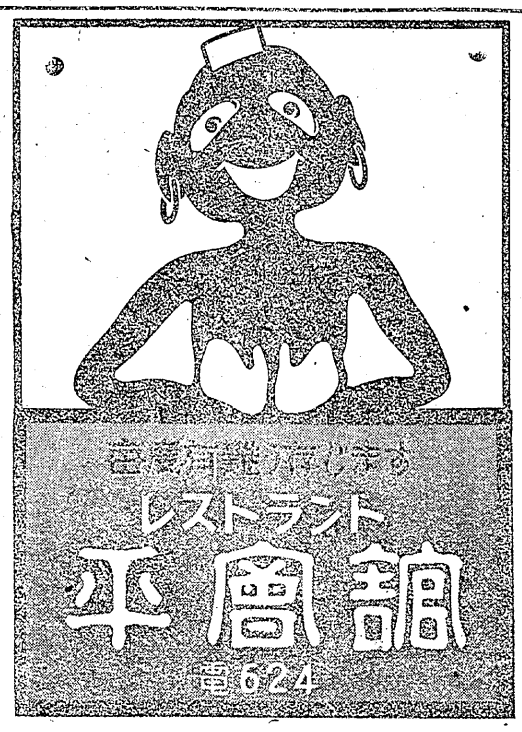
貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切叮寧　料金は極め低廉で
妊産婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添
炊事や雜用　年寄やお子さんの付添
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話二二番）
上原家政婦會
會主　産婆　上原通子

鈴木邦三郎儀不慮の災禍により昨二十七日午後六時三十分旅行先に於て死去致候間此段謹告仕候　敬具
追而葬送の儀は來る三十日午后一時自宅出棺菩提院に於て佛式に依り相營可申候
昭和十年十月二十八日
平町二丁目
兄　鈴木堅助
男　鈴木新右衛門

店主が店員を連れて行かれる
正シイ食堂
正シイ喫茶
正シイ酒場
平田町
レストラン　サロン
電三五二番



清涼の小瀧へ!!
◇宿泊料　1.50　2.00　2.50
（御滯在は左記料金にて中食料をふくませます）
◇日歸浴席料　.20
◇自炊料　.50－.80（入場料・室料・夜具料一切）
◇料理一定食　.80　1.00　1.50
（その他一品料理洋食）
◇湯　効　神經痛・リウマチス・胃腸病・痔疾・婦人病・逆上・中風・肥胖病
（内務省東京衛生試驗所檢定濟）
◇諸設備　撞球臺・高級ラヂオ・大廣間・讀書室・近代式浴場と洗面所・水洗式便所・小動物園・タクシー部・御子樣運動器具
◇名物　川魚料理（うなぎ・鯉）蜂密羊かん
◎女中數名入用◎
常磐線湯本驛　小瀧鑛泉
御旅館　御自炊　瀧の湯
電話（小名濱）103番



かまぼこ製造
板藤商店

平町一丁目
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
天孫商
電話一四一番

慘事現場の復舊成る

昨夕から列車運轉開始

磐越東線開通以來稀有の慘事を惹起した川前村地内の列車轉覆箇所四百米の復舊工事は所轄仙臺鐵道局指揮の許に郡山、福島、平各保線區より二百餘名の工夫を動員し更に川前、小川郷各青年團、消防組員應援の大努力に依り昨廿八日午後五時漸く完成したので直ちに貨物列車の試運轉を行つた上平發午後四時四十九分旅客列車（現場同五時四十分通過）より運轉を開始した

最後に發見された杉山炭礦主

靈前に遺愛の獵銃

榮えある歸途に此慘禍

昨廿八日午後三時頃大體死傷者全部を收容し木ッ端微塵となつた車體の取形付中最後の三等車室内に茶色洋服を着た紳士が二箇のトランクの下に押し潰されて居るのを發見身元調査の結果所持の名刺に依つて内郷村大字白水杉山炭礦主杉山今朝吉氏（五七）と判明したが同氏は廿五日福島市の濟生會御親授式に參列しての歸途此の慘事に遭遇したのであつて遺骸は本日午前八時頃内郷村白水の自宅に到着鐵道大臣其他の花輪に飾られた棺前にはけふ明治神宮射擊大會に本縣代表として出場の爲め所持する筈であつた遺愛の獵銃が供へられて弔問者の胸を打ち五百の自家炭礦勞働者は暗然として礦主の喪に服してゐる

死傷者の弔慰に

鐵相祕書が來平

今回の鐵道事故犧牲者及び重輕傷者慰問の爲め本廿九日鐵道大臣官房秘書高橋邦夫、本省旅客課長木村薩規の兩氏が今朝郡山を發し途中遭難現場を視察の上來平鐵道大臣代理として後藤平驛長の案内で遭難者の家庭を訪れ靈前に禮拜弔意を表し鐵道大臣よりの香奠三十圓と花輪一基を贈つた、尚大島仙臺鐵道局よりも香奠二十圓と花輪一基が靈前を飾つたが近く今回の遭難者全部に對し弔慰規定に依る見舞金を贈るべく目下調査中であると

土木技師

被害調査

平土木監督所管内の災害には既記の如く列車轉覆事件に依る縣道破壞、山間村の山津浪等を始めとし被害甚大に及ぶので内務省土木局第一技術課から本廿九日佐藤技師が來郡被害調査を行つたが管内の被害は道路三十七箇所四萬九千三十圓、河川卅二ヶ所、四萬九千三百三十圓、橋梁三ヶ所八千六百圓、其他合計七十二ヶ所、總額十萬六千九百六十圓の巨額に達し直に復舊工事の設計に着手した

水魔の足跡

浸水六百九十戸

平町の豪雨被害

平町に於ける廿七日夜來の豪雨被害は最近稀れな水魔の跳梁となつて浸水家屋續出、床上六十五戸、床下六百二十八戸の慘狀を呈したが立町を筆頭に各區内の浸水左の通り

（床上）立町十八　鎌田町十七　仲間町六　北白銀町五　久保町十一　北目町七　月見町一（床下）長橋十四　材木町二十二　立町二百五十三　鎌田町四十九　仲間町百二十五　北白銀町四十二　久保町三　北目町四十　胡摩澤七　銀治町二　大町七　月見町二十七　南町四　新川町二十八

尚産業統計調査員の報告に依る平町の農作物被害は總額約三百八十八圓七十錢と見られ平年の約五割減と査定されてゐるが種別被害左の通り

△午蒡八畝　百四十貫二十一圓　△大根五反歩　九千本廿一圓　△積菜二反歩　七百二十貫廿九圓　△油菜二反歩　九千束十七圓　△葱二反七畝　千三百五十貫　百二十五圓　△人蔘三畝六十七貫　六圓七十錢

山津波に襲はれて

山間方面に死傷者多數

本郡を襲つた未曾有の豪雨被害激甚なるは昨報したがその後悲報相次ぎ地方民を暗然たらしめてゐる――上遠野、田人村の如きは廿七日午後七時頃突如巨浪の如き山津波捲起り田人村大字南大平相馬喜一郎方では家諸共同村四時川に押流され喜一郎さん一名助かつたのみで娘のきく（一九）まさ（九つ）かづ（三つ）たかの四名が溺死女房は行方不明となつた又同字岩崎元吉方でも同時刻家諸共押流され元吉及妻は行方不明、伜の政吉の屍體のみ發見された、次ぎに上遠野村大字根岸櫛田とく（五五）同所江尻武宗（一三）の兩名は廿七日午後七時頃稻の流失を防ぐべく同字地内鮫川の根岸橋を渡らうとした際橋と一緒に激流に押流され廿八日午前九時頃屍體を發見された、兩村の死者は八名、行方不明三名と數へられて居る

闇夜泥海の中を

飛び廻る提燈の灯

凄氣漲る鮫川附近

植田町も鮫川の水が吐ききれず鐵橋附近一帶が泥海と化して暗夜に右往左往する人の提灯の燈が凄氣を添へたが廿八日に至つて浸水家屋四百餘戸に及び農作物の被害殊に稻は刈取期に入つた折とて流失多く刈取らざるものも獨水に倒されこの被害は莫大なものと豫想される

神宮出場の榮を擔つて

本郡青年選手

けふ勇躍出發

第八回明治神宮體育大會へ榮ある本縣代表選手として出場する本郡の左記青年部陸上競技選手一行は主將鈴木武雄氏引率の下に今廿九日零時四十九分平驛發列車で勇躍出發した

（四百米）内郷村大谷岸雄（千五百米）平小池敬一（千米端典繼走）内郷チーム　坂本誠　加藤鐵兒　大谷岸雄　寒河江武雄（走巾跳）湯本丹野富士雄（走高跳）平町鈴木武雄（柔道）小名濱中根武雄　神谷阿部文平

榮轉の……

白水檢事

五日頃出發

郡山區裁判所に榮轉した平區裁判所檢事白水勝起氏は來月五日頃出發の赴任の途に着く筈

平町人事

回出生

△六間門二　安達郡梨澤村大字糖澤字岩崎生れ國分正美氏長男正弘さん

廣告

入樂入門はハーモニカから
ヤマハバンド
ハーモニカ　景品付賣出し
オクテーブ　一、七〇
復音　一、五〇以上
良品は所有者の誇り
山葉オルガン・ピアノ特約店
國定教科書販賣所
角忠　佐々木商店
平公園前・電話二三三番

看護婦急派
求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七

トテモ動らぬとて逃げ出す者が多い

平職業紹介所が不審を抱き

昭和人絹の操業振りを調査

昭和人絹會社設立以來大規模の操作に依る男女工の大量募集で平職業紹介所よりも當初より現在まで四百餘の多數男女工を斡旋してゐるが現在の調査に依ると斡旋した人員中僅かに百餘名の就職を見るのみで他の三百餘名は半途で退社しその後の行動が不明となつて居るため何故に斯かる多數の半途者を出すかの主要原因調査に同所神名倉氏は昨廿八日前記會社に出張同社の操業振り及び待遇方法等を詳細に調査した

官服の上に

交通安全のカミシモ

路上に安全ビラ飛ぶ

交通安全デーの平警察署は本廿九日午前十時柴田平署長の便乘指揮する警察用サイドカーを先頭に數臺の自動車に署員が分乘して『守れ道德』等の標語を各自動車に貼布「交通安全」と黑文字を書いた上ツバリを官服の上に着て平市内を一巡の後湯本、小名濱、江名、豊間等管内各町村に宣傳ビラを撒いて歸署した

千三百の兒童

秋朗かに歌ふ

重要視される

郡下學童の唱歌會

郡下小學校兒童唱歌會は既報の如く明後卅一日午前十時から平第三小學校講堂で開催されるが今回からは特に情操教育方面に力を注ぐ關係から重要視し從來の學校聯合であつたのを教育部會の主催と改め歌曲も全部文部省檢認定濟のものを選んで盛大に催される筈であるが出場校廿七校、出演兒童は約千三百名で平町各校より出演は左の如くである

△平第一校（遊技）「鉛の兵隊さん」尋二山崎慶一外卅七名（齊唱）「日本男子」尋四根本孝三郎外卅八名（合唱）「菊の香り」高二田中忠太郎外卅九名

△平第二校（遊技）「僕等の東郷さん」尋一、二明智節子仲三〇名（齊唱）「一太郎やあい」尋三、四、五大和田清子外廿九名（合唱）「箱根山」尋六、高一、

三日の明治節に

平女子青年總會

婦人會と聯合して聽講

平町女子青年團の秋季總集會は來月三日の明治節をトし平第二小學校講堂で開催されるが尚正午より平婦人會と聯合し大日本聯合女子青年團並びに同婦人會嘱託小田八重子女史の講演があるとされた

△評議員　門傳登美乃　大和田コト　有馬秀　小野ティ

△委員（第十區）石川ヨシエ（第六區）渡邊シヅ（第四區）横田靖子（第十三區）西丸八重子　近藤イツ子（第十四區）永山チヨ（第十七區）鈴木フサ

△班長（第七區）小野ティ

△顧問　柴田鶴作　大嶺庫　佐藤今朝次郎　藤井一

國防婦人

役員を追加

大日本國防婦人會平分會にては今回左記の如く役員並に顧問を追加して去る廿四日それ〴〵囑託並に推薦さ

明日のラヂオ

仙台放送局

三十日

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間　子供の音樂會　無憂華幼稚園々兒

▼後六、二五 青年の時間「私の視た滿蒙」內田泰郎

▼後七、三〇 講演「中央アジア及近東諸國との貿易關係」松島肇

▼後八、〇〇 俚謡　今重造

▼後八、三〇 合唱「メシア」竹內禎子他　同志社榮光館フアウラー講堂中繼（京都）

▼後九、〇〇 ラヂオ小說「荒木又右衛門」（三）市川八百藏

▼後九、三〇 時報　ニユース　明日の歷史　氣象通報　番組豫告

▼他

氣豫報

今晩も明日も南西の風晴曇半す

明日の部

▼前六、三〇 英語講座（三ノ四）長澤英一郎

▼前七、〇一 朝の修養「教育に關する勅語」謹解三川村理助

▼前九、〇〇 家庭メモ

▼前一〇、三〇 婦人思想講座「宗教と哲學」（二）矢吹慶輝

▼後〇、〇五 ラヂオレヴユウ「ばれどらむうる」大阪松竹少女歌劇

▼後一、二〇 海軍機教育号命名式實況羽田東京飛行場中繼

▼後二、四〇 小學生の時間　高二「國語」伊藤博文公天野雉彦

▼後三、一〇 教師の時間「經濟地理の取扱について」佐藤弘

▼後六、〇〇 獨唱と齊唱　中山梶子　平山美代子

▼後六、二五 基礎英語講座（廿三）岡倉由三郎

▼後七、三〇 講演「教育勅語の渙發に就て」井上哲次郎

▼後八、〇〇 浪花節　矢頭右衛門　七京山小圓

▼後八、三〇 小唄　井上聲鳳片岡我童

▼後八、四五 ラヂオコメディーガラマサどん東寶ヴアラエティ

七俵のお壽司が一日半で賣切れ

豪雨に邪魔されたが

磐女のバザー成功

磐城高等女學校のバザーは昨廿八日正午まで二日間に亘つて開催されたが賣上金は第一日二千五百六十九圓四錢、第二日四百七十七圓十七錢、合計金三千四十六圓二十一錢で昨年より約百圓の賣上金減小を見たが豪雨さへなければと學校では殘念がつてゐる因に食堂部に使用した白米七俵のお壽し二千八百箱が第二日目半ばで賣切となつた豪勢さで食慾增進の秋とはいひいかに一般から待望されてゐたか首肯される

平職業紹介所報告

回　人を求める方

△配達　廿二才迄　尋卒給料面談

△三助　五十才迄　月給五六圓

△給仕　十五、六才　高卒日給卅錢

△女中　廿五才迄　三名給料五—八圓迄

△旅館女中　卅才迄　尋卒給料面談

△雜役　廿才前後　尋卒給料十圓

△臨時農夫　四十才迄　給料面談

△農夫　四十五才迄　二名給料十五圓

△漁業雜役　十六才　尋卒絕料六圓

△同　卅才迄　二名　給料十二圓

△豆腐賣子　四十才迄　給料歩合

△家具職工　四十才迄　日給一圓

△人夫　五十才迄　日給七十錢

△配達店員　廿才迄　高卒月給六圓

△店員　廿才迄　高卒　月給十圓

△雜役夫　卅才迄　月給十五圓

△粕〆人夫　卅才迄　二名月給十圓

△精米助手　卅才迄　高卒月給十五圓

△採炭夫　四十才迄　日給一圓

△人絹男工　高卒　日給五十錢

回　職を求むる方

△中等教員　廿八才　女大卒

△配達人　廿五才　高卒

△事務員　廿三才　中卒

△外交員　廿六才　高卒

△同　卅九才　高卒

△同　卅一才　高卒

△事務員　廿四才　甲種商卒

△牛乳配達　廿二才　高卒

△小使　廿三才　高卒

△給仕　十八才　高卒

△自動車助手　十七歳　高一女修

△同　二十歳　尋卒

△農夫　廿七歳　尋卒

△店員　十九歳　甲種商卒

△硝子度員　廿二歳　高卒

△雜役　廿六歳　尋四修

△絹糸男工　十九歳　高卒

△同　廿一歳　尋卒

△ベルト職工　十七歳　高卒

△仕上工　廿三歳　高卒

△鑄物工　廿五歳　高卒

△鐵工　十六歳　高卒

藤沼醫院

平町・紺屋町

電話五〇七番

明治太平記

（長篇時代小説及上演）

（作）寺島柾史
（畫）宮本三郎

第百六十二回

新島原跡（一）

幾度か忍びこむ工夫を思ひめぐらした末、ふと顔をあげると、大志賀の眼に二階の明るい窓のまどかけにかすかな人影が映つた。撫肩の、細そりした、女の姿――。

――おゝ、おとわ。

大志賀は、おもはずのび上つて低く叫んだ。

けれど、おとわには、それが通ぜぬらしく、まどかけをあけて、呼應する風もない。

――おーい、おとわ。

が、その大志賀の切なる叫びを、冷たく振拂ふやうにして、窓に映じたおとわの影は、ふたたび消えてしまつた。

――おとわ、おとわ。

狂はしく大志賀は窓下へ駈出さうとした。

と、そのとき、左右、背後におとわとはまつたく違つた。怪しい人影のいくつも動くのを、彼は、眼敏くみてとつた。

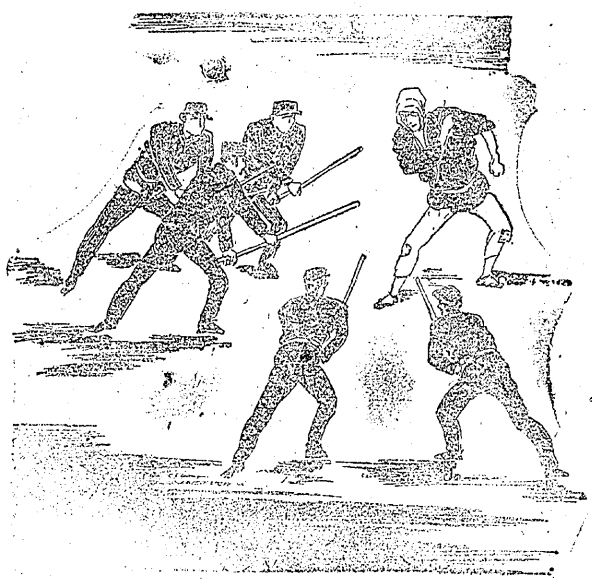
――はてな。

そこで、薩摩絣の、痩た西郷のやうな彼は、駈はさうとする足を、ひたととめて前後左右に氣を配つた

――さア、來い。

といつた態度で、樣子をうかがふと怪しい人影の一つが彼に近寄つて來て

『鐵路工事場脱走人夫神妙にいたせ』



突出された三尺棒を、わづかにさけて

『人違ひであらう』

『いや、その脱走人夫といふよりも傳馬町牢獄脱出のおのれは大志賀市之丞にまちがひはあるまい』

『……』

『さア、神妙に屯所まで同行せい』

『いやだ』

駄々ッ子のやうにすねてみせた。

『いやだといふても、權力をもつて連れてゆくぞ』

『その權力にも屈せぬ拙者だ』

『なに！』

『召捕れるなら、召捕つてみろ』

『よくぞ、官吏を侮辱いたしたな！』

『侮辱かくやしいなら闘はう。それとも怖れて手出しが出來ぬのか』

同じ築地新島原のくるわ一廓へ邏卒の一隊に追はれて、大志賀ほどの腕達者だが丸腰では敵しがたく、無念ながらまぎれこんでしまつた。

お武家御待合芽屋、三河屋、品川屋、中萬字屋などの大きな建物は、すでに取拂はれてしまつたが、元島原仲の丁にはまだ妓樓の空家が軒をならべてゐて大志賀をかくまつてくれるに格好の場所だつた。

紅燈のほの明るさは失はれたが、それでも、どこかに脂粉濃淡の香りがたゞよふてゐるやうに感ぜられたその妓樓の一軒に大志賀は忍び込んで、しばらく息を殺してゐた、邏卒の一隊の靴音や、聲々が、近づいたり遠のいたり、なか〳〵この一廓から立去る氣色もない。

毎度有難う存じます

純上海式支那料理と
洋食!!

特製燒賣（シウマイ）
折詰調製致します。
お土産に是非お持ち
歸り下さい……。

一折
¥0.30
0.50

平三・警察署通り
お食事と茶の店
今なり

只今の値段
スコッチ　一オン十錢
並毛糸　〃　十一錢ヨリ
霜降毛糸　〃　十四錢マデ
十八錢ヨリ
十二五錢マデ
今年度新色全部揃ひました
ハシモトヤ特製
平編のドレスセーターも澤山揃ひました
平・田町　ハシモトヤ糸店
電話十四番

難波醫院
内科一般
醫學博士　難波睦
看護婦募集
平町大町新川端
電五〇二

鼻耳
咽喉　科專門
大和田醫院
平町　南町一六（電話一七〇番）

一電氣グレイン運轉手　壹名
經驗ノアル方
一木型職見習　數名
一身元照明　身体强健　十五・六才
給仕　一名
履歷書持參ー委細面談
平電氣鑄鋼所
電話二六番

外科
專門　X光線科
上田外科病院
平町　南町
電話一二九番

吉田眼科病院
平紺屋町電話六〇番
醫學士　吉田久雄